



起立性調節障害について（小児科より）

こんな症状の小・中学生のお子さんがいらっしゃいませんか？

- ・朝なかなか起きることが出来ず、遅刻や欠席が多い。
- ・しょっちゅう頭痛や腹痛を訴える。
- ・立ちくらみ、乗り物酔いをしやすい。
- ・夕方から夜にかけては元気で、夜更かしをしがち。

これらの症状からは、起立性調節障害が疑われます。

起立性調節障害とは

誰でも急に立ち上がるとめまいや立ちくらみを起こすことがあります。

子どもの頃、学校の朝礼などで長い時間立っていて、気持ち悪くなってしゃがみこんだり、意識が遠のいたりした経験をお持ちの方は多いでしょう。このような症状は、血圧が低下し脳の血液循環が悪くなるために起こります。

起立すると、血液は重力のために下半身に移動します。それに対し、下半身の血管を反射的に収縮させ、血圧を維持しようとする自律神経の自動調整が行われていますが、成長期の自律神経のアンバランスによりこの調整がうまくいかなかった状態を起立性調節障害といい、立ちくらみのみでなく様々な症状が引き起こされます。

気づかれにくい疾患

上記の様な症状ですから、病気とは思われず、「なまけもの」「意志が弱い」などと言われてしまうことがあります。放置しておくことと心理面に悪影響を与えることもあり、不登校の誘因になることもあります。

起立性調節障害の診断・治療

診察・各種検査で他の病気を否定した上で、診断基準に基づいて診断を行います。

重症度を判定し、治療を開始しますが、軽い方では、生活パターンの見直しや症状に対する対処法を理解して頂くだけでかなり良くなる方もおられます。

症状が強い方に対しては昇圧剤（血圧が下がらないようにする薬）などの薬物

を用います。

体質といってもよい疾患ですから、短期間で症状が消失する方は少なく、じっくり治療に取り組む必要があります。

お子さんに思い当たる症状があれば、一度当院小児科医師にご相談ください。